

わが社の Our company 一押し工法

日本仮設

大規模修繕で移動昇降式足場「リフトクライマー」が注目



覆いがないため景観や防犯にもメリット

この方法は特にマンションの大規模修繕で注目を集めている。全面を囲う足場や布が不要なため「景観が悪い」「光や風が遮られる」「防犯上に不安がある」といった

デメリットを解消。工事中でも窓を開放したり、ベランダで洗濯物を干すといった日常生活に支障をきたさない。そのため日中も長くマンション内で過ごす主婦層からの指名が増えているのだ。同社では、詳細を動画サイト「リフトクライマー」で検索すると見ることができ。問い合わせは☎011・662・2611まで。

「リフトクライマー」は、日本仮設（本社・札幌市）が日本総代理店を務める昇降式の足場。柱が少ないため、1階部分に店舗や駐車場があっても施工でき、強風下でも作業

が可能だ。従来の足場に比べて組み立てや解体期間もおよそ半分で済み、作業員の昇降時の負担や転落の危険性も少ない。

「リフトクライマー」は、日本仮設（本社・札幌市）が日本総代理店を務める昇降式の足場。柱が少ないため、1階部分に店舗や駐車場があっても施工でき、強風下でも作業

社長が講師を務め全業種の経営者を対象にした「助成金セミナー」を札幌市内で開く。場所は、あいおいニッセイ同和損保札幌千代田ビル（札幌市北区北7条西5丁目）。時間は午後2時から同4時半まで。先着60人まで。参加費は無料だが6月28日まで事前に申し込みが必要。詳細は☎011・728・0101まで。

民泊とマンションシヨンの併用を提案

札幌市中央区で民泊などの住宅宿泊施設を運営する「ペストステイ札幌」（本社・札幌市、相澤亮佑社長）が新たに民泊とマンションシヨンの併用型活用を提案する。これは立地や旅行者ニーズにあわせて賃貸収入を得るこ



相澤亮佑社長

とでムダのない運用をおこなうもの。手がける物件はススキノから札幌駅北口付近までの都心部で、稼働率と利益のバランスを重視しておこなう。同社は昨年12月設立ながら、すでに80戸以上の物件を管理。

年内には100戸以上になる見通しだ。「民泊は短期旅行者が中心でマンションシヨンは長期旅行者や単身赴任者がターゲット。マンションシヨンは提携する不動産会社と連携することで、質の高いサービスを提供し、他社と差別化を図りたい」と相澤亮佑社長。問い合わせは☎011・520・7600まで。

ば弁護士を志していた」大学院を修了後、東京都内の法律事務所で1年間勤務した後、友人の紹介で2016年に現事務所（東京都千代田区）に入所した。東京事務所時代は企業案件を中心に、リーガルチェックから就業規則の作成、M&A、事業承継などを担当。18年3月、札幌事務所開設にあたり、自ら札幌行きを希望。所長に就任した。札幌では企業案件のほか、家事事件の依頼も多く、全道にリーガルサービスを届けたいと胸に自ら地方に赴き、依頼主と関係を構築。依頼数も右肩上がり伸び、多忙な毎日を送っている。

一方、私生活ではもっぱらのアウトドア派。趣味はキャンプ、登山、旅行。最近では夕張市にキャンプに行ったほか、夏は富士登山、カナダでのキャンプも計画中とか。

また、陸上自衛隊の予備自衛官でもあり、有事に備えて日頃から体を鍛える。知力と肉体を兼ね備えた弁護士だ。